

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は平成27年4月以降、高山市中心市街地活性化基本計画に基づき「住みやすいまち」「にぎわいのあるまち」「やさしさにあふれるまち」を基本方針として各事業を実施している。

このうち「住みやすいまち」「にぎわいのあるまち」については、平成28年12月に「高山祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことや歴史文化を活用したまちづくりの推進などの効果も相まって、本市の平成29年の観光客入込み者数が過去最高の約462万人となり、中心市街地においても交流人口の増加やにぎわいの創出が図られている。

また、「やさしさにあふれるまち」については、平成28年度完成の高山駅東西線（自由通路）をはじめ、平成29年度には駅西交流広場、東口及び西口の駅前広場・駐車場などが完成したことにより、高山駅周辺の機能強化が図られ利便性が向上している。

一方で、一部の地域に観光客が集中しているため、良好な歩行空間の創出や交通体系の改善、平成29年4月にオープンしたイータウン飛騨高山や平成30年7月に開館予定の飛騨高山まちの体験交流館の効果的な活用などにより、今後、中心市街地全体での回遊性の向上や経済活力の創出を更に推進する必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（中心市街地区域）	平成26年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	10,578人	9,963人
人口増減数		
社会増減数		
転入者数		

※人口は該当年度内の10月1日を基準日とする。

2. 平成29年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成29年4月にオープンしたイータウン飛騨高山は、中心商店街のにぎわいに対して一定の効果을 上げている。今後もこれを維持・向上していくために、各店舗スペースの拡大など施設内配置の再構成も視野に入れ、現在の店舗の有効活用により、更なる集客性の向上を図る必要がある。

「やさしさにあふれるまち」の目標指標である公共施設利用者数について、目標達成可能と見込まれないとのことである。自由通路の完成により、市民の移動の利便性は向上したと考えられるものの、他の要因により施設利用者が減少している。平成30年度は、総合福祉センターにお

いて新たな事業も予定されているが、利用者増加に向け、魅力的な催し物の開催やソフト事業の充実に更に取り組む必要がある。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
住みやすいまち	中心商店街 歩行者自転車通行量	16,369 人 (H26)	17,349 人 (H31)	18,325 人 (H29)	①	①
にぎわいのあるまち	中心商店街営業店舗数	365 店舗 (H25)	371 店舗 (H31)	371 店舗 (H29)	①	①
やさしさにあふれる まち	公共施設利用者数	349,081 人 (H25)	370,354 人 (H31)	341,834 人 (H29)	①	②

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「中心商店街歩行者自転車通行量」については、観光客の増加等により目標数値を上回った。目標達成に寄与する主要事業「旧森邸等整備事業」が完了しオープンを控えているため、今後も目標達成可能と見込まれる。

「中心商店街営業店舗数」については、目標達成に寄与する主要事業「外国人対応おもてなし拠点施設整備事業」が完了しオープンしたことにより、目標数値と同数となった。

「公共施設利用者数」については、目標数値を下回っている。目標達成に寄与する主要事業「高山駅東西線（自由通路）整備事業」が平成28年10月に完成し、移動の利便性が向上したことによる効果として、公共施設の利用増加はありとみられるが、当該事業の完成前に既に当初計画にて基準とした利用者数を下回っており、特に総合福祉センターの利用者が年々減少しているため、目標達成可能とは見込まれない。

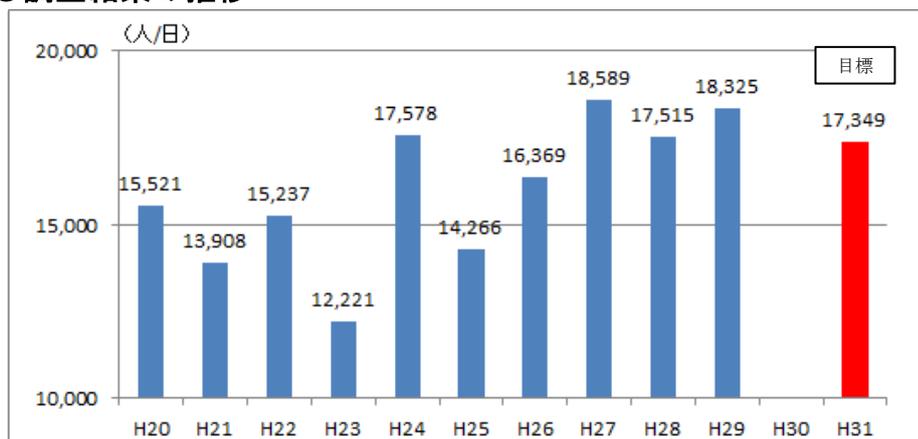
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「公共施設利用者数」については、平成28年度フォローアップにおいては平成28年10月に完成した「高山駅東西線（自由通路）整備事業」の効果が徐々に現れ目標達成可能（①）と見込んでいたが、供用開始から1年経過しても公共施設の利用者数は増加しておらず、基準値を下回る状態が続いているため、②と評価した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心商店街歩行者自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P63～P71 参照

●調査結果の推移



年	単位：人/日
H26	16,369 (基準年値)
H27	18,589
H28	17,515
H29	18,325
H31	17,349 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年11月の平日、休日の各1日に中心商店街の5地点において午前10時から午後5時まで計測

※調査月：平成29年11月

※調査主体：まちづくり会社

※調査対象：中心商店街5地点（本町通（北）、国分寺通、安川通、本町通（南）、さんまち通）を通過する歩行者・自転車通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 旧森邸等整備事業（市）

事業完了時期	平成29年度【済】
事業概要	伝統文化をテーマとした文化交流拠点施設として整備するとともに、隣接する旧図書館跡地に防災機能を持つ交流広場として整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度に着工、平成30年3月に完成し、7月に「飛騨高山まちの体験交流館」として開館予定である。事業効果として253人/日を見込んでいる。 今後、隣接する文化施設「飛騨高山まちの博物館」と一体的に活用することで、市民・観光客の交流と回遊性の向上が見込まれる。

②. 交流広場整備事業（市）

事業完了時期	平成29年度【済】
事業概要	高山駅周辺整備事業地内に様々なイベントの実施が可能な交流広場等を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年度に着工、12月に完成した。年間を通じ、新たなイベントの開催が見込まれ、更なる通行量の増加が考えられる。事業効果として133人/日を見込んでいる。

③. 外国人対応おもてなし拠点施設整備事業（まちづくり会社、商店街振興組合）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	誰もが気軽に立ち寄れることのできる店舗が集結したおもてなし拠点施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度に着工、完成した。平成29年4月に「イータウン飛騨高山」としてオープンし、平成29年度の入込客数の日平均が131人となっている。想定入込客数を105人/日と見込んでいたことから、目標数値を達成している。

④. 駅東口駐車場整備事業（市）

事業完了時期	平成29年度【済】
事業概要	駅東口に駐車場を新たに整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度に着工し、平成30年3月に供用開始した。駅周辺の利便性が向上し、更なる通行量の増加が見込まれる。事業効果として18人/日を見込んでいる。

⑤. 駅東口駐輪場整備事業（市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	駅東口に駐輪場を新たに整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度に着工したが、平成29年度に施工ヤード確保のためのバス及び歩行者の切り廻しに時間を要したため、予算繰越により平成30年8月の完成予定としている。事業効果として6人/日を見込んでいる。

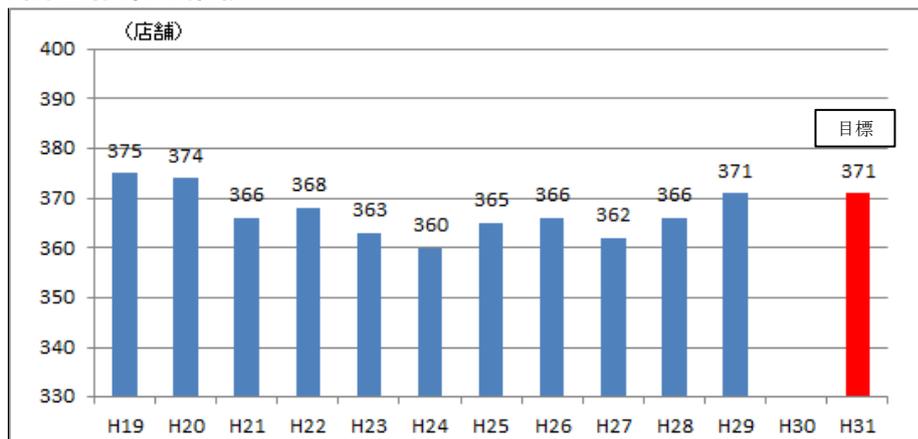
●目標達成の見通し及び今後の対策

観光客の増加等により目標数値を上回ることができた。

なお、目標達成に寄与する主要事業である「旧森邸等整備事業」については、平成30年7月に「飛騨高山まちの体験交流館」として開館予定であるため、今後更なる歩行者自転車通行量の増加が見込まれる。

「中心商店街営業店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P73～P76 参照

●調査結果の推移



年	単位：店舗
H25	365 (基準年値)
H26	366
H27	362
H28	366
H29	371
H31	371 (目標値)

※調査方法：職員による目視

※調査月：平成29年10月～11月

※調査主体：まちづくり会社

※調査対象：中心商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 総合的な空き店舗活用促進事業（まちづくり会社）

事業完了時期	平成27年度～【実施中】
事業概要	<p>(チャレンジショップ事業) まちづくり会社が空き店舗所有者に対し意向等の調査を行い、利用者の公募、審査、選定、経営の支援までを一括して実施する。</p> <p>(アンテナショップ事業) まちづくり会社が地産品等の販売を行うアンテナショップを開設する。</p>
事業効果及び進捗状況	両事業の実施に向け、空き店舗の継続調査と所有者との交渉を行っている。事業効果として6店舗増加を見込んでいるが、現在のところ具体的な活用策に至っていない。

②. 外国人対応おもてなし拠点施設整備事業【再掲】（まちづくり会社、商店街振興組合）

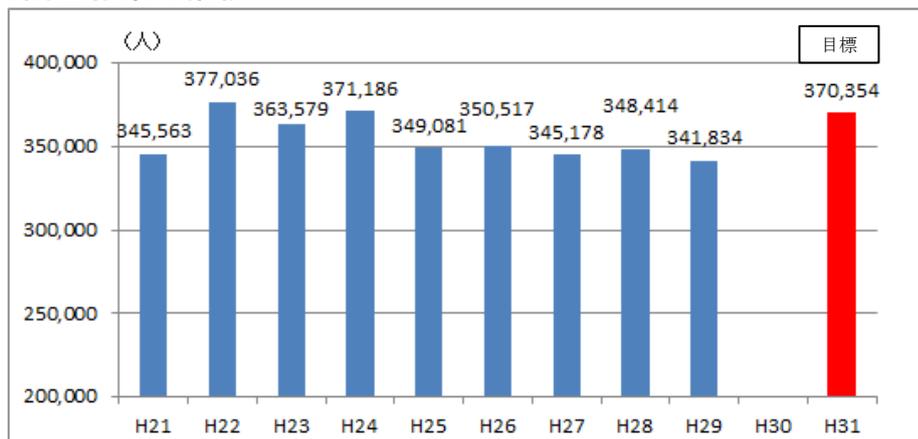
事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	誰もが気軽に立ち寄れることのできる店舗が集結した屋台村を整備する
事業効果及び進捗状況	平成28年度に着工、完成した。平成29年4月に「イータウン飛騨高山」としてオープンし、調査月現在13店舗が営業している。当該事業による店舗増加数を10店舗と想定していたことから、目標数値を達成している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成29年4月に「イータウン飛騨高山」（外国人対応おもてなし拠点施設）がオープンしたことにより、営業店舗数は目標数値と同数となった。計画期間の終了に向けて、今後も営業店舗数が維持できるよう、商空間の魅力向上、中心商店街の回遊性の向上を図る必要がある。

「公共施設利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P77～P80 参照

●調査結果の推移



年	単位：人/年
H25	349,081 (基準年値)
H26	350,517
H27	345,178
H28	348,414
H29	341,834
H31	370,354 (目標値)

※調査方法：各施設の利用者数

※調査月：平成29年4月から平成30年3月まで

※調査主体：高山市文化協会、社会福祉法人高山市社会福祉協議会

※調査対象：市民文化会館及び総合福祉センターの施設利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高山駅東西線（自由通路）整備事業（市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	駅東西を結ぶ自由通路の新設、修景・モニュメントの設置
事業効果及び進捗状況	平成27年度に着工し、平成28年度に完成した。事業効果として市民文化会館利用者数1,161人/年、総合福祉センター利用者数276人/年の増加を見込んでいる。 駅東地区から駅西地区への移動の利便性が向上したことにより、駅東地区の住民の施設利用は増加傾向にあると考える。

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標達成に寄与する主要事業「高山駅東西線（自由通路）整備事業」の供用開始から1年以上経過したが、公共施設利用者は目標数値を下回っている。

市民文化会館のイベント数は毎年同程度であり、1回のイベントにおける動員数が減少していると考えられる。これは、駅正面居住人口が計画策定時1,935人であったのが平成29年度末1,767人に減少していることや少子高齢化が影響していると思われる。総合福祉センターにおいては、駐車場用地として借りていた土地が平成28年8月から使用不可となったため、利用者が減少している。これらの要因により、自由通路の完成前から当初計画にて基準とした利用者数を下回っており、平成29年度においては、両公共施設の補助的な駐車スペースである駅西口駐車場が整備工事のため使用できなかったことや、総合福祉センター内の改修工事の影響もあり、更に利用者数が落ち込んだと考えられる。

自由通路の新設による施設利用者の増加はある程度見込まれるが、当該事業のみでは目標達成は難しいと考えられるため、今後は集客を期待できるソフト面の充実を図る必要がある。平成30年度においては、総合福祉センターにおいて新たに夜間保育を実施するなど、効果的な施設の活用を図っていく。